

グローバル・プロスペクティブ・ファンド <愛称 イノベーティブ・フューチャー>

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第4期(決算日2023年5月22日)

作成対象期間(2022年5月21日～2023年5月22日)

第4期末(2023年5月22日)	
基準価額	10,075円
純資産総額	304,175百万円
第4期	
騰落率	△ 3.3%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「グローバル・プロスペクティブ・ファンド」は、2023年5月22日に第4期の決算を行いました。

当ファンドは、主として、「日興AMARK ディスラプティブ・イノベーション・ファンドクラスA」円建投資証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっておりま

した。ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<644730>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

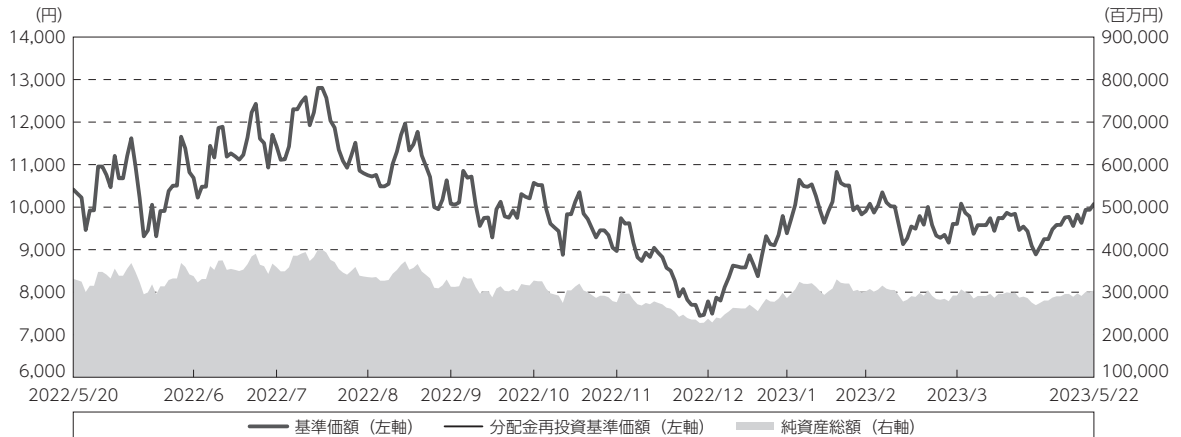
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年5月21日～2023年5月22日)



期 首：10,416円

期 末：10,075円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 3.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかに 대해서는お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2022年5月20日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式(預託証券を含みます。)を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・米国の金利上昇一服や過度な利上げ見通しの後退などから、主要株式市場が反発したこと。
- ・中国の新型コロナウイルス規制の緩和などを受けてセンチメントが好転したこと。
- ・米国の積極的な利上げ姿勢や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進んだこと。

<値下がり要因>

- ・インフレ高進や各国の中央銀行の利上げ姿勢などから景気悪化懸念が広がったこと。
- ・大幅な利上げの長期化観測や景気減速懸念、世界的な金利上昇などが悪材料となり、主要株式市場が再び2022年の年初来安値を更新する下落となったこと（2022年8月中旬～9月下旬）。
- ・欧米で金融機関の経営破綻や経営難が相つぎ、金融システムに対する懸念が広がったこと（2023年3月）。

1万口当たりの費用明細

(2022年5月21日～2023年5月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
	円	%	
(a) 信 託 報 酬	86	0.863	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(16)	(0.166)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(66)	(0.664)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.006	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷 費 用)	(0)	(0.001)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	87	0.869	
期中の平均基準価額は、9,932円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

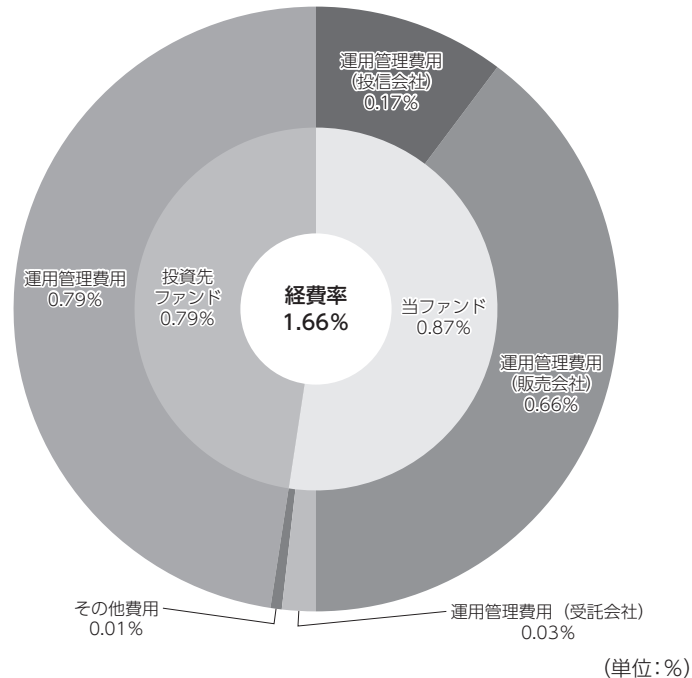
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.66%です。



経費率(①+②)	1.66
①当ファンドの費用の比率	0.87
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.79

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年5月21日～2023年5月22日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2019年6月28日です。

	2019年6月28日 設定日	2020年5月20日 決算日	2021年5月20日 決算日	2022年5月20日 決算日	2023年5月22日 決算日
基準価額 (円)	10,000	12,147	20,724	10,416	10,075
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	21.5	70.6	△ 49.7	△ 3.3
純資産総額 (百万円)	113,560	368,054	817,356	331,453	304,175

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年5月20日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2022年5月21日～2023年5月22日)

(株式市況)

世界の主要株式市場は、期間の初めと比べて上昇しました。

期間の前半は、地政学的リスクの高まりや世界的な景気減速懸念などが市場の下落要因となり、2022年6月下旬にかけては、米国消費者物価指数（CPI）の伸び率加速を受けてインフレ高進への警戒感や大幅な利上げ観測が広がるなかで、米国連邦準備制度理事会（FRB）が利上げを決定し、各国の中央銀行も利上げに追随したことで景気悪化懸念が拡がりました。その後7月からは、米国の金利上昇一服や堅調な企業決算などを下支えにセンチメントが好転して市場は反発しました。インフレ圧力が警戒されつつも、米国の2022年4－6月期実質国内総生産（GDP）成長率（速報値）が前期比でマイナスとなりテクニカル・リセッション（2四半期連続のマイナス成長）入りが意識されたことなどから過度な利上げ見通しが薄れ、米国株式を中心に8月中旬まで反発基調が続きました。しかしその後は、欧州を中心とするインフレ率上昇や、各国の中央銀行のタカ派（インフレ抑制的）姿勢、大幅な利上げの長期化観測などから市場は再び下落に転じました。さらに、中国四川省などのロックダウン（都市封鎖）入りや中国の景気減速懸念、インフレのピークアウト期待の剥落、アメリカドル高の進行、世界的な金利上昇なども悪材料となりました。10月以降は、自律反発や、英国の政治や財政政策を巡る不透明感の解消、米国の利上げペース減速観測の浮上などから世界的にリスクセンチメントが改善したことに加えて、中国のゼロコロナ政策の緩和や米中対立懸念の後退などが追い風となり、市場は反発基調となりました。しかし2023年2月からは、FRBによる早期の利上げ停止への期待が後退したことや、米国の地方銀行の経営不安が高まったことなどが、株価の重しとなりました。その後、米国の地方銀行の相つぐ経営破綻を受けて金融当局が預金者保護を表明したことや経営難のスイスの大手金融グループが救済買収されたことなどから、金融システムに対する過度な懸念が緩和し、株価は反発しました。期間末にかけては、好調な企業決算などが株価を下支えして底堅く推移し、主要株式市場は上昇して期間末を迎えました。

(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの－0.02%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、－0.03%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの－0.13%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、－0.17%近辺で期間末を迎えました。

(為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、右記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

(2022年5月21日～2023年5月22日)

(当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「日興AM A R Kディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA」円建投資証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(日興AM A R Kディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA)

当ファンドでは、市場が縮小する局面においては、ポートフォリオを確信度の高い銘柄群に集約・集中させていく方針です。期間中、当ファンドではこのアクティブ戦略に則り、集中的な銘柄に投資する特性を維持しました。

足元の厳しい市場環境を受けて、特斯拉（自動車・自動車部品）、ロク（メディア・娯楽）、ズーム・ビデオ・コミュニケーションズ（ソフトウェア・サービス）など、確信度の高い銘柄の組入比率を引き上げました。

ピンタレスト（メディア・娯楽）については、相対的な確信度および年平均成長率（CAGR）の魅力に基づいて売買を行ってきましたが、厳しいマクロ環境下でユーザー基盤の維持に成功していることから、再び組み入れました。さらに、最高経営責任者（CEO）による新リーダーシップのもと、クリエイターの獲得から、コンテンツをeコマースと統合する戦略へと焦点をシフトしており、ユーザーがキュレート（情報を選んで集めて整理すること）された検索エンジンの代わりにアプリ検索広告を採用することで、検索広告のシェアを拡大できる可能性があることが、確信度の回復につながりました。

一方、スポティファイ・テクノロジー（メディア・娯楽）を売却し、確信度のより高い銘柄への投資に充てました。また、TuSimple Holdings（運輸）については、CEO解任や米国の規制当局の調査を受けていることなどを理由に、保有の解消を始めました。こうした動向に加えて、提携先や顧客の潜在的な損失を理由に、当ファンドでは同社に対する全般的な確信度やポジションを見直しました。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年5月21日～2023年5月22日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

(2022年5月21日～2023年5月22日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充たなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 4 期
	2022年5月21日～ 2023年5月22日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,877

(注) 対基準価額比率は当期分配金 (税込み) の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下四捨五入して算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「日興AM A R Kディストラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA」円建投資証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(日興AM A R Kディストラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA)

引き続き、主として日本を含む世界の金融商品取引所に上場されており、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式 (預託証券を含みます。) に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

株式の銘柄選定にあたっては、破壊的イノベーションに関連するテーマを幅広く調査し、社会課題解決への寄与という観点を加味して投資対象銘柄を選別していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

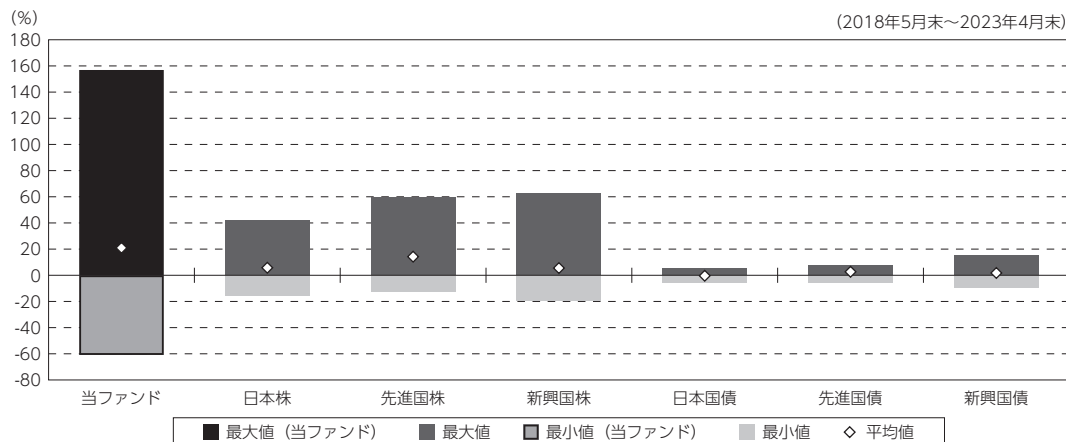
2022年5月21日から2023年5月22日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式
信 託 期 間	2019年6月28日から2029年5月21日までです。
運 用 方 針	主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式（預託証書を含みます。）を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA」円建投資証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運 用 方 法	主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている、破壊的イノベーションを起こし得るビジネスを行なう企業の株式（預託証書を含みます。）を投資対象とする投資信託証券の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。投資信託証券の合計組入率は、高位を保つことを原則とします。各投資信託証券への投資比率は、原則として、市況環境および投資対象ファンドの収益性などを勘案して決定します。
分 配 方 針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	156.9	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△ 60.9	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	21.0	5.8	14.2	5.5	△ 0.4	2.7	1.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年5月から2023年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2020年6月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年5月22日現在)

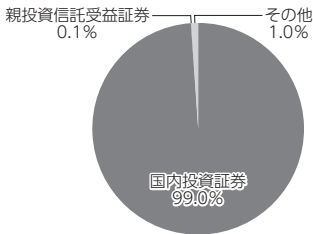
○組入上位ファンド

銘柄名	第4期末
	%
日興AM ARKディスラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA	99.0
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

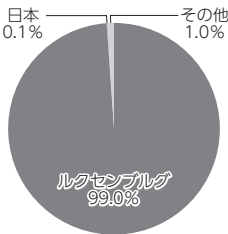
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

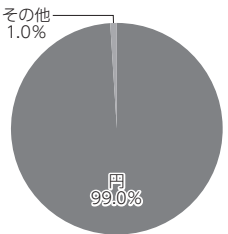
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資証券には外国籍（邦貨建）の投資証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第4期末
	2023年5月22日
純資産総額	304,175,149,025円
受益権総口数	301,905,441,221口
1万口当たり基準価額	10,075円

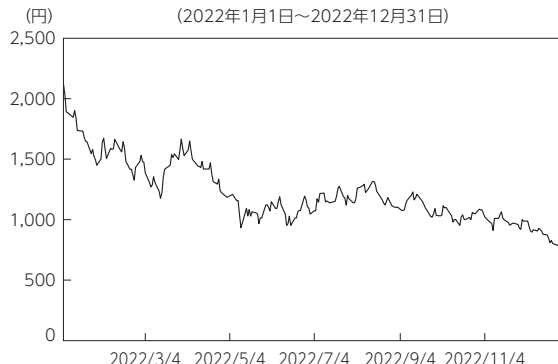
(注) 期中における追加設定元本額は12,840,865,526円、同解約元本額は29,163,188,906円です。

組入上位ファンドの概要

日興AM ARKディストラプティブ・イノベーション・ファンド クラスA

【基準価額の推移】

(2022年1月1日～2022年12月31日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年1月1日～2022年12月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2022年12月31日現在)

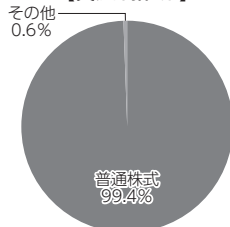
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	ZOOM VIDEO COMMUNICATIONS-A	普通株式	アメリカドル	米国	9.4%
2	ROKU INC	普通株式	アメリカドル	米国	7.0
3	TESLA INC	普通株式	アメリカドル	米国	6.4
4	EXACT SCIENCES CORP	普通株式	アメリカドル	米国	6.3
5	BLOCK INC	普通株式	アメリカドル	米国	6.2
6	UIPATH INC - CLASS A	普通株式	アメリカドル	米国	4.9
7	SHOPIFY INC - CLASS A	普通株式	アメリカドル	カナダ	4.6
8	TELADOC HEALTH INC	普通株式	アメリカドル	米国	4.2
9	CRISPR THERAPEUTICS AG	普通株式	アメリカドル	スイス	4.1
10	UNITY SOFTWARE INC	普通株式	アメリカドル	米国	4.0
組入銘柄数		41銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

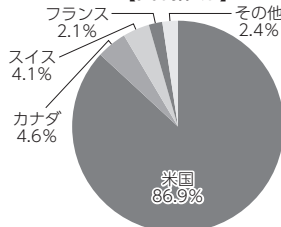
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

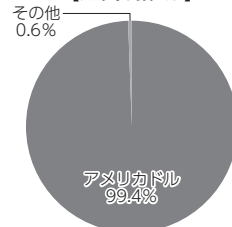
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



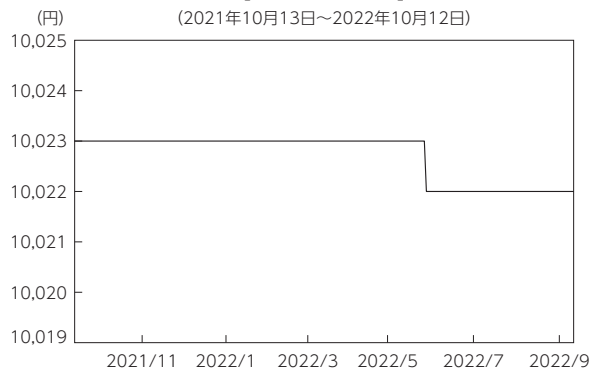
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2021年10月13日～2022年10月12日)



【1万口当たりの費用明細】

(2021年10月13日～2022年10月12日)

該当事項はありません。

組入資産の内容

(2022年10月12日現在)

2022年10月12日現在、有価証券等の組入れはありません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。